

VISTA 6 ユーザーレポート

大分朝日放送株式会社 様

VISTA 6



NサブにVISTA 6を導入



大分朝日放送株式会社
技術局 技術部
後藤 恭一郎

Nサブについて

当社では、開局から14年が経過し老朽化が目立ち始めたNサブを2007年6月に全面更新しました。Nサブは当社にとって唯一のスタジオ・サブシステムであるため、日々のニュース、情報生番組、収録番組、編集・完パケ等、用途が多岐にわたっています。これら全ての用途に瞬時に、柔軟に対応でき、かつ、これまでのアナログ卓で感じていた不便、不足を払拭し、将来の拡張性を考慮すると言う高いハードルを掲げシステム検討を行いました。



音声卓選考基準

今回の更新に当たり、映像システムはニュース送出を考慮したOTC運用と、制作番組、収録番組を考慮したマニュアル運用を兼用したシステムとすることが決まっており、音声システム構築にあたって、映像システムとの連動を念頭に下記の点を重視しました。

- 安定性:システムとしての安定性の高さ
電源等の2重化のみならず、制御用のパソコンがフリーズしても、本線系に影響しない事。
- サイズ:20本以上のフェーダー数を確保しながら、幅1500mm以下とすること。システム全体がコンパクト(ラック1本で収容可能)であること
- 運用形態:OTC運用時は基本的に音声マン無しで運用可能とする。マニュアル運用時はワンマンオペレーションとし、また緊急時にはOTC運用からマニュアル運用にスムーズに移行できること
- 基本性能:HA、D/A、A/D等の基本的機能が内蔵され、かつ性能及び運用性が高いこと
- 利便性:事前パターンの登録やページングの利用で簡単に瞬時に必要な運用状態にできること
- 制御系:マニュアル運用、OTC運用、EMGの各運用形態で同様にリモート制御が可能なこと
- 拡張性:ステレオシステムで構築するが将来のサラウンド化を考慮すること。また、BUSのアサインやSEND、RET、AUXの割付が自由にユー

ザーで変更できること

これらを精査した結果VISTA 6を導入しました。

稼働状況

導入から半年が経過し、大きなトラブルも無く順調に稼働しています。導入前にはそれまでのアナログ卓からの劇的な変化に音声マンが対応できるかどうか心配でしたが、VISTAの優れたユーザーインターフェースのおかげで、大きな混乱も無く、毎日のニュースや編集・完パケ作業、情報生番組の送出にもセッティング時間が短縮でき効率的に運用できています。また、音声マンが自分好みのフェーダーレイアウトに変えることができ、好評です。今後は更に使い込んでこの卓の持つポテンシャルを最大限引き出せる番組作りをしていきたいと考えています。

